



原添下区域南東部の2棟の建物跡を巡り意見を交わした鳥海柵跡シンポジウム

# 建築史的にも重要事例

佐川 正敏氏

今回のシンポジウムの中心は、L字の堀で囲まれた区画（原添下区域南東部）の四面廂付掘立柱建物跡だが、箱崎さんが紹介された事例は、圧倒的に仏堂だったと思う。日本では、仏堂以外でこのような形が出てきている例はあるのか。

箱崎 和久氏

現存する建物では、仏堂などの宗教的なものしかない。発掘調査で確認される例も、同時併存なのか、いわゆる双堂形式なのかというのが確定できない事例

が多い。

## 金ケ崎の国指定史跡 鳥海柵跡

19

## 考察 全盛期の中心的建物

2017年度シンポジウムより

### パネルトーク要旨 II

佐川 正敏氏

いずれ類例が見つかるとして、日本のこの時期も含め、かなり重要な事例であると認識してよいというところか。

箱崎 和久氏

そうだと思う。建築史的な視点でも、なかなか事例がない。事例を集めていつて、建築の歴史の流れの中にどのように位置付けられるかという点でも重要な遺

構だと思う。

佐川 正敏氏

二つの建物が北向きで、しかも同時にあったかという指摘は重大な課題である。本堂さんから雪の問題も指摘された。その点についてはどう考えるか。

箱崎 和久氏

本堂先生の話と、今回初めてこちらの雪の量を見て復元図では廂を板葺にした

お寺の建物は、瓦屋根で修理が難しいが、板葺の建物はわりと簡単だと思う。ただ、建て替えていない。しかも柱跡が残っているので、柱を抜いて何かを建てようとしたのではなく、その場で廃絶している。簡単に直せるとはいえ、直していかないのかもしれない。

（つづく）

#### 登壇者

コーディネーター

佐川正敏氏

パネリスト

千田嘉博氏

本堂寿一氏

大平 聡氏

相原康二氏

高橋 学氏

箱崎和久氏

（奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長）

浅利英克氏

- （東北学院大学教授）
- （奈良大学教授）
- （国史跡鳥海柵跡整備委員会委員長）
- （宮城学院女子大学教授）
- （えさし郷土文化館長）
- （秋田県埋蔵文化財センター副所長）
- （金ケ崎町教育委員会）